

# 令和3年度第1回東京都地域医療対策協議会 委員意見（まとめ）

## 1 議事

### 東京都保健医療計画の進捗管理について

（御意見等）

- ・現在のようなコロナ禍のような非常事態の体制の評価はどうなっているのか。（奥田委員）
- ・計画や事業策定部門と評価部門を分けたことは、評価の客観性を確保する観点から評価できる。（河原委員）
- ・着実に成果を上げているものと思う。（伊藤委員）
- ・コロナ禍の中で、医師・看護師とも、人材確保並びにその対策事業等の実施ができる範囲で最大限に実施されたと思う。（古賀会長）
- ・現下のコロナ感染による緊急事態への医療機関の取り組みには、敬意を一語だが、将来に向け今回の経験をどう生かすことができるのか、平時の医療計画と、災害時の医療計画の論点を知りたいと思っている。（酒井委員）
- ・目標値を医師、看護職員数を「増やす」と設定しているので、評価基準に則ると事務局案のとおりである。しかし、新型コロナウイルスによる医療需要の劇的な増加により、医療人材は不足しているため、人材確保の目標や評価方法を見直す必要があるのではないか。病院・病床の医療機能や、診療科毎などの医療需要に対して、適切に医療人材の再配分がなされているのか、という視点や分析もいるのではないか。（中野委員）
- ・新型コロナの影響と考えられる「令和2年度実績」の減少がみられる（資料2-2）。たとえば、ナースバンク事業の相談件数、研修事業の受講数が激減しており、また「看護外来相談開設研修事業」が中止になっている。オンラインによる相談や研修など実施方法を工夫し、より多くの潜在看護職員が参加できる機会を増やす方法をご検討いただきたい。（中野委員）
- ・小児科、救急科が人口10万人当たりの医師数が増加しているが、産科・産婦人科が12.2から12.1と微減している。東京都としては「周産期」の医師を増やすという政策もあると思うので「周産期」とした場合の医師数の増減も検証していただきたい。（福島委員）